

ロシア (極東)

景気後退が明らかなロシア経済

2016年上半期のロシアの実質GDP成長率は前年同期比0.9%のマイナス成長となった。前年から続くマイナス成長から抜け出せていない。

原油をはじめとするエネルギー資源の国際価格が低下していることにより、輸出が大きく減少していることの影響が大きい。1～8月の輸出累計額は1760億ドルで、対前年同期比25.0%減となった。このままのペースで行けば、通年で、世界金融危機の影響で輸出が激減した2009年を大幅に下回ることになりそうだ。これに対して、輸入の減少幅は小さい。1～8月の累計額は1125億ドルで、対前年同期比4.8%減である。直近のデータである8月は、前年同月を上回った。結果として、1～8月の貿易黒字額は、2015年の1163億ドルから、2016年の635億ドルへと激減した。

国内消費も低迷が続いている。小売売上高の減少が続いており、輸入品の流入の勢いが弱まったとしても、必ずしも国産品が売り上げを伸ばすことができるとは言えない状況である。一部では輸入代替が進み、そのことが鉱工業生産の下げ止まりの兆しにも表れているものと推測されるが、力強さに欠けている。輸入代替の進展については、詳細な分析が求められる。

物価については、過去2年間の急騰から一転して、安定的な動きを見せている。9月までの対前年12月比の消費者物価上昇率が4.1%とというのは、過去最低の物価上昇率であった2011年を下回っており、ロシアとしては非常に安定した物価動向であると言える。

中期経済見通しと2017年予算

経済発展省は、2015年まで毎年9月ないし10月に3年間の中期経済見通しを発表してきた。そして、これがその

後に政府が発表する連邦予算案の裏付けとなっていた。これに対して2016年は、11月7日現在で経済発展省のウェブサイトには中期経済見通しは掲載されていない。他方、来年度予算案(正確には3カ年度予算)は10月28日付けで政府から議会に提出されている。予算案説明資料では、2019年までの経済見通しに基づいて予算案が策定されたことになっており、公開はされていないもの見通し作成作業自体は行われた模様だ。

予算案説明資料によれば、予算策定の基礎となった「基本シナリオ」では、2017年から3年間のGDP成長率予測はそれぞれ0.6%、1.7%、2.1%となっている。2015年10月に発表した2016年からの3年間の見通しを、0.1～0.2%下方に修正しつつ、さらに1年間後ずれさせた形になっている。

輸出額、ひいてはロシア経済にもっとも大きな影響を及ぼす要素である原油価格(Urals)は2017年から2019年まで1バレルあたり40ドルにとどまると想定している。これは1年前に策定した見通しでは「保守的シナリオ」として予測した低位水準の価格であり、当時想定した最悪のシナリオに従って事態が推移しているということになる。その上で、原油輸出量(重量ベース)は、2017年以降、対前年比で4.6%、2.6%、0.8%増加すると想定しており、その分、輸出額も増加することを見込んでいる。

これらを踏まえ、予算案では2017年の歳入を13.5兆ルーブル(対GDP比16.1%)と見積もっている。このうち、石油・ガス関連歳入は5.1兆ルーブルで、2016年実績見込みより増える。これに対して、歳出は16.2兆ルーブル(同18.7%)で、結果として2.8兆ルーブル(同3.2%)の赤字となる予算を組んでいる。この赤字を埋めるため、約1兆ルーブルの残高がある予備基金すべてを2017年に充当するほか、国民福祉基金や政府借入などを活用する計画となっている。2018年以降は、予備基金をあてにすることができなくなるので、予算管理は一層難しくなる。

(ERINA 調査研究部長・主任研究員 新井洋史)

(対前年同期比)

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2015			2016														
								1Q	2Q	3Q	1Q	2Q	3Q	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月			
実質GDP	▲7.8	4.5	4.3	3.4	1.3	0.6	▲3.7	▲2.8	▲4.5	▲3.7	▲1.2	▲0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
固定資本投資	▲13.5	6.3	10.8	6.8	▲0.2	▲1.5	▲8.4	▲4.8	▲8.8	▲13.0	▲4.8	▲3.9	▲4.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鉱工業生産高	▲9.3	7.3	5.0	3.4	0.4	1.7	▲3.4	▲0.4	▲4.9	▲4.2	▲0.6	1.0	▲0.1	▲2.7	1.0	▲0.5	0.5	0.7	1.7	▲0.3	0.7	▲0.8	—	—	—
小売売上高	▲5.1	6.5	7.1	6.3	3.9	2.7	▲10.0	▲7.0	▲9.6	▲9.9	▲5.8	▲5.9	▲4.7	▲6.4	▲4.7	▲6.2	▲5.1	▲6.4	▲6.2	▲5.2	▲5.1	▲3.6	—	—	—
実質賃金可処分所得	3.0	5.9	0.5	4.6	4.0	▲0.7	▲4.3	▲2.3	▲4.8	▲5.2	▲3.7	▲5.8	▲6.1	▲5.7	▲4.3	▲1.3	▲7.0	▲6.0	▲4.5	▲7.0	▲8.2	▲2.8	—	—	—
消費者物価*	8.8	8.8	6.1	6.6	6.5	11.4	12.9	7.4	8.5	10.4	2.1	3.3	4.1	1.0	1.6	2.1	2.5	2.9	3.3	3.9	3.9	4.1	—	—	—
工業生産者物価*	13.9	16.7	12.0	5.1	3.7	5.9	10.7	9.2	11.5	12.0	0.1	6.4	—	▲1.4	▲2.9	0.1	2.7	3.7	6.4	6.6	—	—	—	—	—
輸出額(十億ドル)**	301.7	397.1	516.7	524.7	527.3	497.8	343.5	90.3	91.6	79.3	61.2	68.5	—	17.6	20.2	23.5	22.0	22.2	24.3	22.8	23.4	—	—	—	—
輸入額(十億ドル)**	167.3	228.9	305.8	317.3	315.0	286.7	182.7	42.0	44.8	47.5	36.0	43.6	—	9.1	12.2	14.7	14.6	13.7	15.2	15.3	17.6	—	—	—	—

*前年12月比。

**税関統計ベース。

***斜体は暫定(推計)値。

出所:『ロシアの社会経済情勢(2015年12月号;2016年1月、7月、9月号)』ほか、ロシア連邦国家統計庁発行統計資料